



▲昨年やろ舞い大祭に出場した皆さん

やろ舞い大祭で 地域を元気に

晩夏の風物詩となった『やろ舞い大祭』が、今年も9月9日(土)に町民会館第1駐車場で盛大におこなわれます。

出場47チーム、総数約1000人が色あでやかな衣装に身を包み、威勢のいい掛け声とともに鳴子を鳴り響かせながら熱い演舞を披露します。

大口町にお祭りを

平成9年、まち全体が一つになる祭り文化がないことから、大口町が町全体が楽しめる祭りを一緒に作ろうとメンバーを募り、呼びかけに集まった10名で「大口町まつり創生研究会」が結成されました。

祭りの立ち上げや運営に関しては全員が素人だったため、まずは祭りをイメージすることから始まり、どうしたら参加する人や見にくる人が楽しめるか、幾度となく検討を重ね

られました。

参加者は町内に限らず、各地の祭りやそれに関わるスタッフに話を聞きに行きました。また、岩手県釜石市の夏祭りでは「釜石よいさ」に参加。祭りを肌で感じるとともに地元グループと交流し、祭りの創作を学びました。

そして結成から5年後、やろ舞い大祭実行委員会と名称を変え、平成14年9月、町制40周年記念事業で「100年続くまつり」をスローガンに掲げ、地域に根づけと願いが込め



▲第1回やろ舞い大祭で総踊りを踊る参加者

られた「第1回やろ舞い大祭」が開催されたのでした。

鳴子チームは町内外から24チームが参加。運営は実行委員会の他、町内の中学生や住民のボランティアが多く関わり、地域社会への参画の場となりました。これが今でも続くやろ舞い大祭の始まりです。

やろ舞い大祭

今年で16回目を迎えるこのお祭りは「来て！観て！踊ろまい！」を合言葉に、町内外、老若男女のチームが、地元の文化や愛着を表現した曲に、華やかな衣装で飛躍感あふれる

演舞を披露し、観客に元気や感動を与えてくれます。

最近では、ヒップホップやフラダンス、パントマイムといった幅広いジャンルのパフォーマンスも登場しています。

特別企画

やろ舞い大祭の特別企画も楽しみの一つ。5年前の『Z-PIFF MORNING CHARGE』のコラボ企画』では、お笑い芸人としてデビュー前の「キンタロー。」さんが「第1回ビッグマウスコンテスト大町町を中心で大町を叩く！」に出場し、「日本全国スマイル王国にす



▲第9回 やろ舞い大祭

るべく、私のお笑いエッセンスを注入するぞ！」と叫んで見事優勝しました。その後、宣言どおりお笑い芸人として活躍をされています。

今年の見どころは、昨年北海道札幌市のYOSAKOIソーラン祭りで大賞を受賞した全国的にも有名な犬山市のチーム「笑」と、にっぽんど真ん中祭りでおなじみの名古屋学生チーム「鯨」、そして姉妹都市 島根県松江市からも演舞チームが参加し、お祭りを盛り上げてくれます。迫力のある演舞をお楽しみください。

祭りを支える

やろ舞いプロジェクト

このお祭りは「大町町NPO登録団体やろ舞いプロジェクト」と「大町町」が協働で企画・運営しています。メンバーは現在13名。祭りを陰で支えます。

同会は祭りが終わると同時に参加チームと反省会をおこない、来年に向け年間スケジュールを立てます。

年が明けると、チラシ作りや、チーム募集の原稿作り、ポスター制作の



▲やろ舞いプロジェクト代表 宇野省さんと会議をするスタッフ



準備、特別企画の検討などがおこなわれ、祭りが近づくに参加チームの申し込みや音源を確認、プログラム作りと準備にほぼ1年を費やします。メンバーの地道な活動がやろ舞い大祭を支えています。

祭り前日は舞台が生まれ、当日は音響、給水、招集、司会、太鼓、行政やまちづくり団体の出展、中学生ボランティア、そして協賛企業と、さまざまな形で祭りを支え、「1000

年続く、地元で根付くまつりを」という先人の夢を引き継いでいます。副代表の大森正太郎さんは「この祭りの取り組みが、まちを盛り上げる一環となれば嬉しいです。大口町に根付く祭りになるといい」と、祭りの更なる活性化を楽しそうに語ってくれました。

踊り子たちの思い

大口町を代表するチームを紹介します。さくらメイトさくら連

大口町で最初に結成された鳴子踊りチームです。「大口町を盛り上げよ



▲さくらメイトさくら連

うと結成されました。今年で18年目を迎えました！ またまだ、頑張ります！」

菜花

大口町を拠点に活動をしている、鳴子踊りファミリーチーム。にっぼんど真ん中祭りでは過去に3回入賞しています。

「菜花にとってやろ舞い大祭は地元の大切なお祭りです。祭りのスローガン『100年続くまつり』を実現する力になりたいです。今後町内外、いろんな地域の方にやろ舞い大祭を知ってもらい、盛り上げていきたいです」



▲菜花



▲あさぎ

あさぎ

初回から参加しているあさぎは、にっぼんど真ん中祭りで『どまつり優秀賞』など6つの賞を取る注目のチームです。

「チームにとってやろ舞い大祭は夏の集大成となる祭り。地域に感動を与えたいと演舞を続けています」

他にも祭りを裏方として支え、地元チームと五条川の桜保護活動もしています。

取材にて

『大口町まつり創生研究会』のメンバーだった岩佐栄興さんは、「祭りをスタートするために費やした日々はとても楽しく、自分の人生に大きく

影響を与えた」と熱く話されました。この活動で町への愛着が増し、当時一宮市にお住まいでしたが、ご結婚を機に大口町に引っ越されたそうです。

また、祭りを支えるやろ舞いプロジェクトメンバーは、参加チームと観客が一緒になって踊る、祭りフィナーレの『総踊り』で、皆さんの楽しんで踊る姿や笑顔を見ると、祭りのために費やした1年間の苦労も吹っ飛ぶとのこと。

今回、取材で関わった皆さんの共通点は「大口町が大好き」というまちへの想いです。この想いが活動の原動力となっていると感じました。

この祭りには、町内の幼稚園や保育園、小中学校のチームが参加しています。子どもの頃から祭りに親しむことで楽しい思い出が刻まれ、彼らが成長したとき、いろいろな力やチで次世代を担っていく。この繋がりが大口町に熱く根付いていくことでしょう。

地域文化のバトンを次の世代に繋げながら『100年続くまつり』を目指してほしいと取材をとおして強く思いました。